

## 富山逋信病院は 開院50周年を迎えました

富山逋信病院は、今年7月1日に設立50周年を迎えました。今日まで当院が発展できたのも、被保険者・ご家族・患者様よりご信頼いただきました事と、地域の先生方にもさまざまな場面でご支援いただいたからこそであり、心よりお礼申し上げます。

地域連携・医療福祉相談室は、2008年7月に開設された院内でも新しい部署です。半世紀におよぶ当院の長い歴史の中で見ますと、その歴史はたった6年、まだまだ発展途上にあります。現在は、室長(高田院長)、副室長(大上外科部長)、副看護師長、社会福祉士、事務員の5人体制です。

地域連携・医療福祉相談室では、地域の医療・福祉機関からの受診・検査予約や入院調整等を行っています。紹介患者様が安心して受診できるよう、受付後に受診科へのご案内をしています。また、より専門的な検査や治療が必要とされた場合の受診予約・転院調整を行います。前方連携と後方連携、どちらも円滑に行うことで患者様が不安を抱えることなく治療を受けることができると考えています。

その他にも、地域連携の充実に向けて活動しています。

【広報活動】…年4回、地域連携だよりを発行。院内情報や開放型病床症例検討会の内容などを地域の医療・福祉機関に積極的に発信しています。郵送するだけでなく、時間の許す限り、ご挨拶を兼ねて直接お届けしたいと思っています。

【訪問活動】…「顔の見える連携」のために、訪問活動は重要と考えています。地域の医療・福祉施設を訪問させていただき、当院に対するご意見、ご要望をうかがい、できる限り当院の診療に先生方のご意見を取り入れたいと考えております。訪問した際には、お忙しい中、いつも暖かく迎えていただき感謝しております。

【地域連携研修会の開催】…2011年より「症例検討セミナー講演会」を開催し、講演会と懇親会に開放型病床登録医を中心とした地域の先生方をお招きしています。第2回からは「地域連携研修会」に名称を改め、毎年の恒例行事として職員にも定着してきました。

今後も、患者様のため、地域の先生方との連携の充実に努めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## ■ 当院における褥瘡治療の変遷 ■

2002年からの褥瘡治療の変遷について報告しました。ラップ療法の導入(図1)、陰圧閉鎖療法(図2)、NST(栄養サポートチーム)との連携、および現在の治療方針(図3)等を発表しました。褥瘡に対する意識の向上、患者に応じたマットレスの選択・ポジショニング、栄養管理等により院内褥瘡発生は低下し、深い褥瘡がなくなっていることを呈示しました(表1)。

(図1)



(図2)



(図3)

- ① 早期のデブリードメントで壊死組織を除去
- ② (膿がある場合) 洗浄
- ③ (増殖期以降は消毒せず) デュオアクティブ(=ハイドロコロイト)
- ④ ハイドロサイト(=ポリウレタンフォーム)
- ⑤ ドレッシングテープのみ

## ■ 褥瘡有病率(%) ■

入院患者は褥瘡対策委員会が開催された日の人数で計算。  
 ・総褥瘡有病率=総褥瘡患者数/入院患者総数×100  
 ・院内発生褥瘡有病率=院内発生褥瘡患者数/入院患者総数×100  
 ・持込褥瘡有病率=持込褥瘡患者数/入院患者総数×100

(表1)

平成21年度褥瘡有病率(%) (平成21年4月～平成22年3月まで)

	H21/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22/ 1月	2月	3月	年間
入院患者	20	24	22	20	27	27	25	22	23	29	30	25	294
新規院内発生	3	2	1	1	0	0	3	1	1	1	3	3	19
持込み	3	1	1	1			2	1	1		2	3	15
褥瘡保有者(合計)	6	3	2	2	0	0	5	2	2	1	5	6	
総褥瘡有病率(%)	30.0%	12.5%	9.1%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	9.1%	8.7%	3.4%	16.7%	24.0%	11.6%
院内発生褥瘡有病率(%)	15.0%	8.3%	4.5%	5.0%	0.0%	0.0%	12.0%	4.5%	4.3%	3.4%	10.0%	12.0%	6.5%
持込褥瘡有病率(%)	15.0%	4.2%	4.5%	5.0%	0.0%	0.0%	8.0%	4.5%	4.3%	0.0%	6.7%	12.0%	5.1%

平成22年度褥瘡有病率(%) (平成22年4月～平成23年3月まで)

	H22/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H23/ 1月	2月	3月	年間
入院患者	27	28	24	24	23	22	25	25	26	24	26	23	297
新規院内発生	2	2	6	2	4	1	2	2	2	1	1	1	26
持込み	2	1	5	2	4	1	1	1	2	1	2	2	24
褥瘡保有者(合計)	4	3	11	4	8	2	3	3	4	2	3	3	50
総褥瘡有病率(%)	7.4%	7.1%	25.0%	8.3%	17.4%	4.5%	8.0%	8.0%	7.7%	8.3%	11.5%	13.0%	16.8%
院内発生褥瘡有病率(%)	0.0%	3.6%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	4.2%	3.8%	4.3%	8.8%
持込褥瘡有病率(%)	7.4%	3.6%	20.8%	8.3%	17.4%	4.5%	4.0%	4.0%	7.7%	4.2%	7.7%	8.7%	8.1%

平成23年度褥瘡有病率(%) (平成23年4月～平成24年3月まで)

	H23/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H24/ 1月	2月	3月	年間
入院患者	19	22	19	23	32	30	29	20	25	15	28	31	293
新規院内発生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
持込み	1	0	0	1	2	2	1	2	1	2	1	1	14
褥瘡保有者	2	0	0	1	2	2	1	2	1	3	1	1	16
総褥瘡有病率(%)	10.5%	0.0%	0.0%	4.3%	6.3%	6.7%	3.4%	10.0%	4.0%	20.0%	3.6%	3.2%	5.5%
院内発生褥瘡有病率(%)	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.7%
持込褥瘡有病率(%)	5.3%	0.0%	0.0%	4.3%	6.3%	6.7%	3.4%	10.0%	4.0%	13.3%	3.6%	3.2%	4.8%

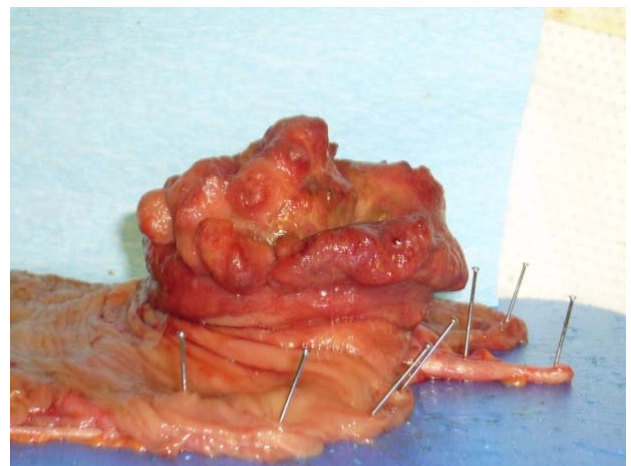
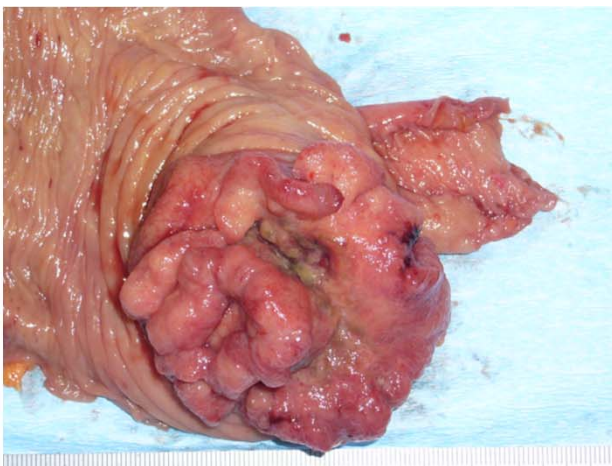


症例は70歳 女性。高度の貧血(Hb 5.1 g/dl)と腹痛、便秘を主訴に精査目的で近医より紹介されました。

右臍部に腫瘤を触知し、軽度圧痛をみとめ、検査所見では、小球性低色素性の貧血に加え、C型肝炎による肝障害とHbA1c 8.3%の糖尿病をみとめました。CTでは、上行結腸に壁肥厚を伴う6cmに及ぶ腫瘍が描出され、その口側は腸管が重なり同心円状陰影をみとめ、腸重積を伴っていました。また腫瘍部周辺のリンパ節腫大もみとめられました。全大腸内視鏡検査では、行き止まり部を占拠する巨大な多結節状の1型の隆起性病変があり、バウヒン弁は判別不能で、NBI観察では、不規則な血管構造が広範囲に観察され、悪性リンパ腫より進行癌が疑われました。生検結果は中分化型腺癌でした。リンパ節転移が疑われるため、術前のFDG-PETCTを施行したところ、腫瘍部と結腸傍～回結腸リンパ節にFDG異常集積をみとめ、他の部位への異常集積はみとめられませんでした。

外科にて5月14日に腹腔鏡補助下右結腸切除術を行いました。切除標本をみると、盲腸から背丈が40mmで円柱状(65×60mm)にのびて発育する1型の腫瘤で、組織では漿膜側および回腸末端部を巻き込んで壁を侵襲していました。また結腸周囲のリンパ節201～203番のリンパ節計23個を郭清しましたが、いずれも反応性の腫大のみで転移はなく、病理診断ではStage IIでした。

腸重積合併盲腸癌の本邦報告例の集計をみると、平均61.6歳 3分2が女性で、発症が緩徐で慢性的に経過する症例が多く、腫瘍径も平均6.1cmと大きく、1型または2型の隆起型81%を占めています。本症例も、少なくとも1年以上前より、貧血と間歇的な腹痛、便秘があり、軽度の腸重積と解除を繰り返しながら、比較的ゆっくりと腫瘍が発育してきたものと思われます。また、壁深達度はMP以深の進行癌が91.4%と多く、リンパ節転移は少なく、限局性浸潤と膨張発育を示す腫瘍が多いようです。



## 開放病床例検討会のお知らせ

次回の開放病床例検討会は、9月16日(火)です。  
8月はお休みさせていただきます。

# 2014年度 前期 外来担当表 (2014年4月1日～2014年9月28日) ※は手術日です

診療科			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	午前	1 診	稲土	島倉	稲土	老子	老子
		2 診	島倉	高田	常田	高田	島倉
	午後	1 診	老子	老子	常田	稲土	稲土
		2 診	高田	—	高田	小林(糖尿病)	—
外科	午前		大上	大上	大上	大上	大上
	午後		大上	大上	※大上	大上	大上
整形外科	午前		豊田	豊田	豊田	豊田	豊田
	午後		豊田	※豊田	豊田	(検査)	豊田
婦人科	午前		井川	—	井川	井川	—
	午後		—	—	井川	—	—
眼科	午前		坂井	坂井	坂井	坂井	坂井
	午後		坂井	坂井	坂井	※坂井	坂井



## 編集後記

日本のW杯サッカーは勝利なしに終わり、夏本番を向かえる季節なのになんとなく寂しさを感じる日々となっています。メキシコ五輪で銅メダルを獲得した日本サッカーですが、「サッカーは五輪よりもW杯のほうがレベルが高く、日本は出場できないんだ」ということを聞き子供ごろに衝撃を受けたものでした。現在、W杯にあたりまえのように出場していることは、当時を知る人からすると考えられないことだと思います。

当院は、今年7月で開院50年を迎えました。護国神社の前に、開院当時の外観を保ち、この地域の「風景」になっていると思います。50年という歴史を大切に、地域のたくさんの皆様から選んでいただける病院目指して行きますのでよろしくお願いいたします。(車谷)

